

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。	・総合的な学習の時間 ・特別活動

【題材】 ボランティア活動、学校間交流活動、地域との交流活動

【対象】 横田中学校全校生徒 27名（1学年9名 2学年7名 3学年11名）

【実践の概要・詳細】

震災後、校庭には約100世帯の仮設住宅がある。本校は、支援されるだけではなく、支援する立場にも立っての復興教育活動を推進している。

本校では、①総合的な学習の時間を通しての「学校間交流活動、地域との交流活動」②総合的な学習の時間を通しての「復興ボランティア活動」③生徒会活動の「上を向いて歩こうプロジェクト」（千羽鶴を届ける活動、仮設の方々との合同合唱など）を三本柱として復興教育に取り組んできた。

### <その1> 学校間・地域との交流活動

7月11日（木）午後、一関市立川崎中学校の1年生28名が本校を訪れました。本校の生徒と初対面でしたが、合同で13のグループに分かれ仮設住宅を訪問し、体育館での交流にお誘いしました。川崎中学校、横田中学校それぞれの合唱や太鼓演奏を披露し、最後の合同合唱で、心を一つにすることができました。2年目も大成功でした。

陸前高田市の横田中学校（伊藤英子校長、生徒27人）に11日、一関市の川崎中学校（千葉敏之校長、生徒94人）1学年28人が訪れて交流活動を行った。横田中生と同校仮設住民らは、川崎中生との団らんや合唱交流などを通じ、深まる絆を確かめ合った。

川崎中は、県中学校校長会などが推進している災害復興支援事業の中で横田中の姉妹校に位置づけられている。事業は、内陸と沿岸の子もたちが交流を持ち、被災校の支援につなげることが目的。昨年は一関市へ横田中

川崎中生を招き、両グループに分かれて仮設住宅を回り、会場に中ラウンドの仮設住宅を訪問して住民と語り合った。

生徒と住民たちは10人ほどのグループで、市の上で輪になって座り、トランプやカルタなどの遊びをしながら会話を弾ませた。後半には両校生徒による合唱や、横田中生による「若竹太鼓」も披露された。被災地の今を知ってもらいたいという思いが、交流会の話を持ち交わった。これからは、横田中の仮設住宅に、沿岸地域にできる支援をしていくことも、横田中の生徒と住民たちへ

横田中は、津波被害から復興した千葉校長は「横田中は、津波被害から復興した千葉校長は、市の上で輪になって座り、トランプやカルタなどの遊びをしながら会話を弾ませた。後半には両校生徒による合唱や、横田中生による「若竹太鼓」も披露された。被災地の今を知ってもらいたいという思いが、交流会の話を持ち交わった。これからは、横田中の仮設住宅に、沿岸地域にできる支援をしていくことも、横田中の生徒と住民たちへ

7月14日 東海新報

## ＜その2＞復興ボランティア活動

昨年も行いましたが、本年度も9月27日（金）、陸前高田市復興サポートステーションを通してボランティア活動を行いました。内容は、高田町砂畑地区公道での側溝の泥出し作業でした。スコップやつるはしで泥をかき出し、土や雑草で埋まっていた側溝をきれいにすることができました。午前中3時間ほどの活動で、40～50mの側溝を進むのがやっとでしたが、生徒は汗を流しながら、休憩時間も惜しんで精一杯体を動かしました。

### ～生徒の感想～

- ・「ボランティア活動を通して、車でいつも通るだけで、じっくり見たことがなかった側溝の土砂あげをした。なぜ、いずれ埋めてしまう側溝の土砂上げをしているのか、いつも不思議に思っていた。今回、遺品や遺族の思い出の品などを捜すためにやっているとわかった。何かないかなという思いで、必死に掘った。」
- ・「とても暑い中での作業だったけど、なんとかやることができた。側溝の土を取ると、生活用品や瓦、お金など、さまざまなものがでてきた。その一つ一つから、津波の力のすごさが分かった。去年もやったけど、今年は実際にものに触れる活動だったので、思いが少し違った。重い石にひっかかって出てこないものは、みんなで力を合わせて引き上げた。3時間ぐらいの作業であそこまできれいになっておどろいた。」
- ・「今回のように私たち中学生でもできることや、地域の人たちが協力して、少しずつでも活動して復興を目指していくことが大事だと思う。これからも復興に向けて時間がかかると思うが、私たちが今できることを、やっていきたい。今でも陸前高田市の復興のために、ボランティアをしに来てくれる人がたくさんいるので、それを力にして街を元気づけていくことが大切だと思う。」

### 故郷でボランティア

#### 横田中生が側溝の泥だし

陸前高田

陸前高田市立横田中学校（伊藤英子校長、生徒27人）は27日、同市高田町内でボランティア体験学習を行った。地元支援団体の活動に参加し、側溝の泥だし作業に力を注いだ。

体験学習は、県教委などによる復興教育の一環で実施。故郷の復興状況を知り、生徒たちが自分でできる支援について考える機会にと昨年から行っている。

この日は、陸前高田

市復興サポートステーション（所長・伊藤雅人 NPO 法人「P@CIT」代表）の活動に全校生徒が参加し、同町砂畑地区の公道約10メートルの側溝の泥だし作業を手伝った。生徒たちは汗をにじませながら、スコップやつるはしで泥をかき出す作業を進め、約2年間土や雑草ですっかり隠れてしまっていた側溝をきれいにした。

奉仕活動に精を出した生徒たち＝高田町



萩原拓真生徒会長は「皿などの生活用品や貴重品など、さまざまなものががれきの中に交ざっていて驚いた。小さなことでもいいから、自分たちができるボランティアをこれからも続けていきたい」と話していた。

**復興ボランティア活動 9月27日**  
**側溝泥出し作業に汗を流す：高田町砂畑**  
 10月1日 東海新報

<その3> 生徒会活動

「上を向いて歩こうプロジェクト」

生徒会では、「上を向いて歩こうプロジェクト」を企画し、全校が協力して地域に元気を届けるというボランティア活動を自主的に行ってきました。

10月27日（日）に行われた本校文化祭「若竹祭」

では、例年のプログラムに加え、地域のみなさんとの合唱を計画しました。『横田に元気を届ける合唱団』と名付け、小中学校の仮設住宅の方々にチラシを配り呼びかけ、若竹祭前に3回の練習会を持ちました。曲名は「花は咲く」で東日本大震災後の支援ソングとしてテレビでも放映されている曲です。若竹祭当日は、閉祭行事の中で、仮設住宅の方々、そして保護者、生徒、教員と約70名での大合唱となりました。「誰かの歌が聞こえる♪誰かを励ましている♪花は花は花は咲く♪」と声を合わせ、心が温まる大きなハーモニーが生まれました。座席からも歌声が響き、体育館が一つに繋がったひとときでした。

仮設住宅の方々から、「CDを聴きながら、家でも歌いました」「大きな声で歌って気持ちがよかった」「また一緒に歌いたい」等のお話をいただきました。



「花は咲く」で心を一つに 10月23日  
仮設住宅・地域の方々と声を合わせて



本書向け「花は咲く」を一緒に練習する横田中の生徒と地域の住民たち

**仮設住民と交流の歌**  
—陸前高田・横田中生徒会—  
**文化祭に向け共に練習**

陸前高田市横田町の約30分間練習した。横田中(伊藤安子校長)生徒27人の生徒と近隣の仮設住宅の住民らで、体を前後に揺らし、27日の文化祭で同じ曲を歌う練習を行った。練習は、27日の文化祭で同じ曲を歌う練習を行った。練習は、27日の文化祭で同じ曲を歌う練習を行った。

同日の練習では、横田中仮設住宅と横田小仮設住宅の住民28人と全校生徒27人が参加。文化祭のフィナーレとして、7月から準備を進めてきた合唱曲「花は咲く」を、生徒と住民が一緒に歌う機会を、昨年の文化祭や7月の合唱交流会でもあったが、ステージに上がるのは初めて。

生徒と住民が一緒に歌う機会を、昨年の文化祭や7月の合唱交流会でもあったが、ステージに上がるのは初めて。

生徒と住民が一緒に歌う機会を、昨年の文化祭や7月の合唱交流会でもあったが、ステージに上がるのは初めて。

【実践のまとめ】

本校では、支援されるだけではなく、支援する立場にもたって復興教育活動を進めてきた。今後も、復興教育における3つの教育的価値を考えながら、被災地としての地域の現状も踏まえ、「今子どもたちにつけさせたい力、今地域に何が求められているのか」を話し合いながら復興教育を進めていきたい。仮設住宅の方々、生徒の声を大事にしながら、今後も三本柱で復興教育活動を進めたい。

# 陸前高田市立横田中学校

## 横田中学校 若竹生徒会

### ①千羽鶴

## 上を向いて歩こうプロジェクト



陸前高田市長さんに渡しました。



常光寺へ合同慰霊祭に届けました。



ボランティアセンターに届けました。



川の駅に届けました。

「上を向いて歩こうプロジェクト」について

平成24年 4月25日(金) 生徒会執行部

- ねらい
  - ボランティア活動を通して、復興を支援する。
  - 多くの人達から、被災地への支援活動が期待される。
- 取り組み内容と取り組み方
 

【準備】

  - ① 千羽鶴の折り紙の準備。1日あたり約1000枚程度、3週間1800枚、計3600枚程度を準備する。
  - ② 千羽鶴の折り紙の準備。1日あたり約1000枚程度、3週間1800枚、計3600枚程度を準備する。
  - ③ 千羽鶴の折り紙の準備。1日あたり約1000枚程度、3週間1800枚、計3600枚程度を準備する。

【実施】

  - ① 千羽鶴の折り紙の準備。1日あたり約1000枚程度、3週間1800枚、計3600枚程度を準備する。
  - ② 千羽鶴の折り紙の準備。1日あたり約1000枚程度、3週間1800枚、計3600枚程度を準備する。
  - ③ 千羽鶴の折り紙の準備。1日あたり約1000枚程度、3週間1800枚、計3600枚程度を準備する。
- 取り組み期間
  - 「準備」・・・平成24年4月25日(金)から「実施」の取り組みを開始。毎週生徒会活動日
  - 「実施」・・・「準備」の取り組みが完了した後に「実施」の取り組みを開始。

これからも地域のために  
自分達のために続けていきたいです

### ②合唱

陸前高田市立横田中学校・  
一関市立川崎中学校  
合同仮設住宅訪問  
合唱交流会ご案内

1. 日時 平成24年7月6日(金)

2. 会場 仮設住宅(仮設住宅1号棟)

3. 参加者 横田中学校合唱部、川崎中学校合唱部、合同仮設住宅訪問者(約30名)

4. 内容 (1) 合同仮設住宅訪問 (2) 合唱交流会 (3) 合同仮設住宅訪問 (4) 合唱交流会

横田中学校と川崎中学校  
校で頑張ります！よろしくお祈りします！



横田中、川崎中合同で合唱を歌いました。

毎週火曜日の朝、合唱練習をしています。



### 復興ボランティア

大町周辺のゴミの処理を手伝いました。



### 若竹太鼓

地域の行事で太鼓を披露しました。

